

2025 年度 長岡大学シラバス

授業科目名	ミクロ経済学演習 (Microeconomics Exercises)					担当教員	牧野 智一 (マキノ トモカズ)	
2020-23 年度 入学者 (20K-23K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	資格対応科目／知識定着・確認 型 AL
	2037-1-23-088	専門科目	選択	2 単位	2 年次	前期		
2024-25 年度 入学者 (24K-25K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	資格対応科目／知識定着・確認 型 AL
	2437-1-23-027	専門科目	選択	2 単位	2 年次	前期		

① 授業のねらい・概要
本授業は、ERE（経済学検定試験）の受験に向け、ミクロ経済学の知識を深めることを目的とする。ERE（経済学検定試験）は、全国単位で行われており、各自の経済学の習熟度を客観的に知ることができる検定である。近年では、企業が採用の際に、この ERE（経済学検定試験）を活用している例もあり、注目度が高まっている検定でもある。 本授業では、1 年次に学習したミクロ経済学の知識の確認と、ERE（経済学検定試験）などの問題演習を中心に講義を進める。
② ディプロマ・ポリシーとの関連
職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する能力
③ 授業の進め方・指示事項
講義形式の授業によるミクロ経済学の知識の確認と、知識の定着を目指した関連分野の問題演習を交えながら授業を進める。各回の授業内容は関連しているため、十分な復習をした上で授業に臨むこと。
④ 関連科目・履修しておくべき科目
「ミクロ経済学」「マクロ経済学」の知識を有すること。「マクロ経済学演習」と共に履修することを推奨する。
⑤ テキスト（教科書）※授業で使用する。
なし。適宜、資料等のプリントを配布する。
⑥ 参考図書・指定図書 ※授業では使用しないが、授業内容に関係し、理解を深めるために必要とする。
西村和雄・八木尚志（2008）『経済学ベーシックゼミナール』実務教育出版 竹内信仁編（2013）『スタンダードミクロ経済学』中央経済社、 経済法令研究会編『ERE（経済学検定試験）問題集』経済法令研究会
⑦ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
昨年度に引き続き、学生諸君が授業内容を理解しやすいように、わかりやすい表現と丁寧な解説を心掛けて授業を行う。
⑧ 評価 A に対応する具体的な学習到達目標の目安
（i）消費者の効用最大化について理解し、関連する演習問題を解くことができる。 （ii）最適消費の変化や財の分類について理解し、関連する演習問題を解くことができる。 （iii）企業の様々な費用曲線について理解し、関連する演習問題を解くことができる。 （iv）企業の利潤最大化について理解し、関連する問題を解くことができる。

⑨ ルーブリック					
評価基準	S	A	B	C	D
評価項目	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 消費者の効用最大化	消費者の効用最大化に関連する問題を、授業で説明を受けた類題だけでなく、初見の問題も自力で全般的に解くことができる。	消費者の効用最大化に関連する問題を、授業で説明を受けた類題を全般的に解くことができ、初見の問題も自力である程度解くことができる。	消費者の効用最大化に関連する問題を、授業で説明を受けた類題であれば全般的に解くことができる。	消費者の効用最大化に関連する問題を、授業で説明を受けた類題であればある程度解くことができる。	消費者の効用最大化に関連する問題を、授業で説明を受けた類題であっても、ほとんど解くことができない。
(ii) 最適消費の変化と財の分類	最適消費の変化と財の分類に関連する問題を、授業で説明を受けた類題だけでなく、初見の問題も自力で全般的に解くことができる。	最適消費の変化と財の分類に関連する問題を、授業で説明を受けた類題を全般的に解くことができ、初見の問題も自力である程度解くことができる。	最適消費の変化と財の分類に関連する問題を、授業で説明を受けた類題であれば全般的に解くことができる。	最適消費の変化と財の分類に関連する問題を、授業で説明を受けた類題であればある程度解くことができる。	最適消費の変化と財の分類に関連する問題を、授業で説明を受けた類題であっても、ほとんど解くことができない。

(iii) 企業の様々な費用	企業の様々な費用に関連する問題を、授業で説明を受けた類題だけでなく、初見の問題も自力で全般的に解くことができる。	企業の様々な費用に関連する問題を、授業で説明を受けた類題を全般的に解くことができ、初見の問題も自力である程度解くことができる。	企業の様々な費用に関連する問題を、授業で説明を受けた類題であれば全般的に解くことができる。	企業の様々な費用に関連する問題を、授業で説明を受けた類題であればある程度解くことができる。	企業の様々な費用に関連する問題を、授業で説明を受けた類題であっても、ほとんど解くことができない。
(iv) 企業の利潤最大化	企業の利潤最大化に関連する問題を、授業で説明を受けた類題だけでなく、初見の問題も自力で全般的に解くことができる。	企業の利潤最大化に関連する問題を、授業で説明を受けた類題を全般的に解くことができ、初見の問題も自力である程度解くことができる。	企業の利潤最大化に関連する問題を、授業で説明を受けた類題であれば全般的に解くことができる。	企業の利潤最大化に関連する問題を、授業で説明を受けた類題であればある程度解くことができる。	企業の利潤最大化に関連する問題を、授業で説明を受けた類題であっても、ほとんど解くことができない。

⑩ 学習到達目標（評価項目）	定期試験 (レポート含む)	小テスト	課題	発表・ 実技	授業への 参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	70%				30%		100%
(i) 消費者の効用最大化	18%				8%		26%
(ii) 最適消費の変化と財の分類	17%				7%		24%
(iii) 企業の様々な費用	18%				8%		26%
(iv) 企業の利潤最大化	17%				7%		24%
フィードバックの方法	試験結果の得点分布等を公表する。						

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分）（※特別な持参物）	
1	オリエンテーション	ミクロ経済学の知識の見直し	60 分
2	効用関数と無差別曲線	効用関数と無差別曲線の理解	180 分
3	予算制約	予算制約についての理解	180 分
4	効用最大化（最適消費）	図による効用最大化（最適消費）についての理解	180 分
5	計算による効用最大化	計算による効用最大化の方法の習得	180 分
6	所得の変化と最適消費	所得の変化と最適消費の関係の理解	180 分
7	価格の変化と最適消費	価格の変化と最適消費の関係の理解	180 分
8	財の種類とスルツキー分解	財の種類とスルツキー分解についての理解	180 分
9	生産関数と費用最小化	生産関数と費用最小化についての理解	180 分
10	総費用関数	総費用関数についての理解	180 分
11	様々な費用曲線	様々な費用曲線とその関係についての理解	180 分
12	利潤最大化	図による利潤最大化についての理解	180 分
13	計算による利潤最大化	計算による利潤最大化の方法の習得	180 分
14	長期総費用曲線	長期総費用曲線と短期総費用曲線の関係の理解	180 分
15	まとめ	各回の講義内容の整理と理解	240 分

⑫ アクティブラーニングについて
知識定着・確認型 AL を採用する。各回の授業に対するコメント（感想・質問等）を学生諸君よりもらい、翌週の授業で可能な限りコメントに対する回答を行い、学修効果の向上に活用する。また、時間に余裕があれば、問題演習において、演習問題の解説を適宜学生諸君にも行ってもらい知識の効率的な習得を目指すために協同学修型 AL も採用する。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性